

潮音寺だより

第 245 号
平成 16 年 3 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/hamo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



六道能化

ひよことして

地獄に墮ちても
ええように

地蔵さまの顔

よう

覚えとかな

あかんで

よう

拝んどかな

あかんで

元箱根磨崖仏
俗称六道地藏

地蔵さまの話

のーえ節

富士の白雪やのーえ
富士の白雪やのーえ
ええ富士のさいさい
白雪や朝日に溶ける

溶けて流れてのーえ
溶けて流れてのーえ
ええ溶けてさいさい
流れりや三島に注ぐ

三島女郎衆はのーえ
三島女郎衆はのーえ
三島さいさい

女郎衆は御化粧が長い

御化粧長けりやのーえ
御化粧長けりやのーえ
ええ御化粧さいさい

長けりや御客が困る

御客困ればのーえ
御客困ればのーえ
ええ御客さいさい
困れば石の地蔵さん

石の地蔵さんはのーえ
石の地蔵さんはのーえ
ええ石のさいさい
地蔵さんは頭が丸い

頭丸けりやのーえ
頭丸けりやのーえ
ええ頭さいさい
丸けりやカラスが止まる

カラス止まればのーえ
カラス止まればのーえ
ええカラスさいさい

とまれば娘島田

娘島田はのーえ
娘島田はのーえ
ええ娘さいさい
島田は情けで溶ける

「存じ、酒の席でよく歌われる『のーえ節』であります。この歌のおもしろさは、女郎（遊女）と地蔵さんが同列で扱われているところでありましよう。」

東海道関宿せきしゆくの地蔵院（三重県鈴鹿郡関町）の地蔵さんには、もっと強烈なエピソードがあります。

むかし、地蔵の開眼ひらめ供養をたまにたま通りあわせた一休禅師（一二九四〜一四八二）に頼んだところ、禅師は地蔵にむかって「釈迦はすぎ、弥勒みろくはいまだ出でぬ間の、かか

るつき世に田あかしの地蔵」と詠み、前をまわって立小便をして立ち去りました。

人々は怒って、別の僧に頼んで開眼供養をやりなおしましたが、その夜、世話人が高熱でたおれました。夢枕に地蔵が立ち、せっかく名僧の供養で開眼したのにと、供養のやりなおしを命じました。あわてて桑名の宿にいた禅師に助けを求めると、禅師は古びた下帯(ふんどし)をはずして、地蔵の首にかけるよう手渡しました。人々は半信半疑で言われた通りにすまじ、世話人の高熱はたちまち下がりました。関の地蔵が首に麻の布切れをまいているのは、この故事によるといわれています。

さまは、地獄をはじめ、六道を巡り、閻魔さま以下さまさまに姿を変えて人びとを救う菩薩(六道能化)であります。他の仏さまとは違い、畏まって鎮座(ちんざ)しているような仏ではないということ、一休禅師を通じて教えてくれているのだと思います。

地蔵さんは、津々浦々、苅むした古い時代のものから、交通事故で亡くなられた現場に、ごく最近たてられたであろうと思われるものまで、本当にたくさん見かけますが、人それぞれに、何か心に残っているものは残っている地蔵さんがいるものです。

先年、地区仏教会の方々と、藤沢市にあります時宗総本山清浄光寺に参詣した折に立ち寄った、元箱根の摩崖仏、俗称六道地蔵は、その

大きさもさることながら、実に印象深い地蔵さまでありました。

この辺りは、厳しい気候と火山性の荒涼とした景観で、地獄の地として、また寶の河原として、昔から地獄信仰の霊場となっていたところだそうです。鎌倉時代後期に、石塔や地蔵摩崖仏がつきつぎと造られ、近年、元箱根石仏群として整備されています。近代的な石塔群保存整備記念館(カイダンス棟)も建てられ、観光地化してしまっているのは、少々重みに欠け、残念なところではあります。

ともあれ、旅の途中で、あるいはふとした路傍(みちのべ)で出逢う地蔵さまに、ハッとすることがあるものです。それは、おんがらへ、無意識に起る懺悔の心が、そつとさせるのかもしれない。

地獄

「熱した鉄の地上に横臥させ、金鉄で口を開け、熱した鉄丸やどろどろに熱した銅の液を口に流し込む。すると□やのどを焼き、内蔵を焼きただれさせて肛門から出てくるという始末」深い悪業をなしたものがここに到達するまでには、炎と獣と鬼の猛威の中を悶絶しながら、さかさまの状態で、一〇〇〇年もかかって地獄へと墮ちていく。

この炎とは自分を焼きつくすものの、阿修羅や鬼がつくり出したものではなく、自分が犯した悪業の結果であり、いま後悔してもどうにもならない。だれも自分を救うものはいないのです。

住職通信



合掌
南無阿弥陀仏とは
目に見えない力を
体得するじゆである

「八大地獄」と呼ばれるものの一つで「阿鼻叫喚地獄」のようすを示すものですが、この絶え間ない苦しみの世界をすべて説き明かすことも、わたしたちが理解することもできないのです。その恐ろしさに耐えきれないほどの苦しみだからです。地獄のことをサンスクリット語でナカラといい、音訳が「奈落」といつじゆになります。「奈落の底」とはこの「地獄の底」であり、地獄を意味するものです。

受験地獄や交通地獄、殺戮や環境破壊、「この世の地獄」という言葉がなんとも実感せずにはおれません。(ひろさちや『仏教辞書百科』)

雑記

▼春彼岸施餓鬼会



春めいてまいりました。今年の冬は、結構寒かったですので、春の日差して、暖かさが、なんとも嬉しく感じます。色鮮やかな草花の開花も目を楽しませてくれるのです。ただ、花粉症の人にとっては、つらい季節でもあるようです。例年に比べて、花粉の飛散は少なめとの予報ですが、どうぞお大事になさってください。

お施餓鬼が勤まります。皆さまお揃いで、お参り下さいますようお願い申し上げます。

◎期日 三月二十日(土)

◎時間 一時半～二時四十分位

▼野仏に蒲公英の花

土団子 沐魚